

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	42	学校名	可児工業高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。 (1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか <b>【GP】</b>	①工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を持った生徒 ②地域社会から信頼され、新たな価値を生み出し、未来を拓く創造性あふれる生徒 ③多様な人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を持った生徒
	生徒をどう育てるか <b>【CP】</b>	①就職や進学に対応した柔軟な選択科目や習熟度に合わせた少人数授業を展開し、タブレット端末などを活用する生徒一人ひとりに寄り添う支援の推進 ②専門的な知識や技術の習得、様々な資格取得のサポートをはじめ、インターンシップ・企業見学を通し、充実したキャリア教育・進路支援の実施 ③地域社会と連携した学校行事、活発な部活動を通して、豊かな人間性や社会性の育成
	どんな生徒を待っているか <b>【AP】</b>	①ものづくりに興味・関心を持ち、身につけた知識や技術を産業界で活かしたい生徒 ②高校生活に明確な目標を持ち、学習をはじめ資格取得、部活動など学校生活に意欲的に取り組み、自ら成長しようとする生徒 ③規範意識が高く、規則正しい学校生活ができる生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を念頭に、多様化する生徒に対してICT機器を積極的に活用した効果的な指導方法を確立するとともに、全職員が共通理解を図りながら連携して指導を行っていく。</li> <li>・本校志願者が入学定員を満たさない現状やものづくりコンテストやマイコンカーラリーなどの各種大会へ参加する生徒が減少傾向にあることから、本校で工業を学ぶ魅力をこれまで以上に地域や中学生に発信していく。</li> <li>・クラス活動や生徒会活動を活発化することにより、日常の学校生活を充実させ生徒の自立心、自律心を育てていく。</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を積極的に活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力および自ら学ぶ意欲や態度を育成する。</li> <li>・工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を育成する。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動のあらゆる機会をとらえて生徒一人一人を正しく理解し、情報共有と共通理解のもと積極的な生徒支援を推進する。</li> <li>・基本的生活習慣身につけさせ、豊かな心と健やかな身体を育成する。</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の社会的自立に向けて生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、特にインターンシップなどの就業に関わる体験的な学習や、外部の教育力を活用した教育活動を通して、望ましい勤労観や職業観を形成する。</li> <li>・産業界から信頼される豊かな人間性や社会性に富んだ人材を育成する。</li> </ul>
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自らの命は自ら守る」という安全意識を醸成するために、生徒への安全教育の充実を図る。</li> <li>・工業部組織として「安全教育事業部」を設け、職員間の意識共有とスキルアップを図る。</li> </ul>

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の修得	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジタイムの実施</li> <li>・基礎力診断テストの実施と診断結果の活用</li> <li>・ICTを活用した授業の実施</li> <li>・姉妹校との交流活動</li> <li>・授業公開週間の実施</li> <li>・授業アンケートの実施</li> </ul>			
	学習活動におけるICT機器のさらなる活用	9	施策Ⅱ-9				
	外国の言語・文化の理解	11	施策Ⅱ-11				
	授業改善に向けた研修の充実	26	施策Ⅳ-26				
生徒指導	集団生活を行う上で必要な基本的生活習慣の構築	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、欠席者数の低減</li> <li>・清潔感ある身だしなみ</li> <li>・人権及び情報モラル教育</li> <li>・合理的配慮の共通理解</li> <li>・アンケートや面談の実施</li> <li>・スクール相談員、ほっとプレイスの積極的活用</li> <li>・ヘルメット着用推進を含めた交通安全教育</li> <li>・MSL、地域貢献活動</li> </ul>			
	思いやりの心、ならびに協調性を高めさせる指導の充実	3	施策Ⅰ-3				
	生徒理解を深めるための積極的な教育相談体制の充実	21	施策Ⅳ-21				
	命の大切さや自己有用感が感じられる働きかけの充実	7	施策Ⅰ-7				
進路指導	外部講師を活用した進路ガイダンス等の充実	14	施策Ⅱ-14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の進路実現達成状況</li> <li>・就職、進学活動への積極性</li> <li>・インターンシップ実施企業等からの評価内容</li> <li>・学校ホームページの充実</li> <li>・進路希望別模試の実施</li> </ul>			
	主体的に進路を決定するための確かな学力の定着	8	施策Ⅱ-8				
	地域と連携したインターンシップ・企業見学の充実	13	施策Ⅱ-13				
	進路指導に関する適切な情報発信	20	施策Ⅳ-20				
安全管理	ヒヤリ・ハット事案の報告と情報共有の推進	19	施策Ⅲ-19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理上の問題の素早い情報共有</li> <li>・運動部指導者の積極的な活用</li> <li>・日頃の生徒の体調確認と各種感染症および熱中症予防の啓発</li> <li>・各科のスキルアップ講座</li> </ul>			
	部活動における部顧問と運動部指導者の協力体制の充実	25	施策Ⅳ-25				
	各種感染症や熱中症予防に対する取組の推進	18	施策Ⅲ-18				
	機械や道具の安全な取扱い方法の理解など、自己のスキルアップに努める取組みの推進	14	施策Ⅱ-14				

来年度に向けての改善方策等

学校関係者評価

実施日：令和7年 月 日